

研究課題名: がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究

課題番号: H27-がん政策-指定-008

研究代表者: 国立がん研究センターがん対策情報センター センター長 若尾 文彦

1. 本年度の研究成果

本研究班は、平成27年11月より研究を開始した。平成27年12月時点での成果は以下の通り。

1) 報告書「指標に見るわが国のがん対策」作成

平成26年度に実施した患者体験調査について、「Ⅰ. 報告書の編集方針」、「Ⅱ. 指標の策定」、「Ⅲ. 策定された指標を測定するためのデータ源」、「Ⅳ. 各がん対策指標の策定結果」、「Ⅴ. 指標の測定によって明らかになったがん対策の課題」、「巻末資料」で構成される報告書「指標に見るわが国のがん対策」を作成した。

「Ⅳ. 各がん対策指標の策定結果」には、がん対策推進協議会に報告し、「がん対策推進基本計画の中間評価報告書 平成27年6月」の添付資料3として採用された「指標名」、「対象」、「算出法」などで構成される「指標一覧」に加え、「全体目標・各要素と指標の詳細」、「分野別施策・各要素と指標の詳細」として、「指標の定義」、「指標の根拠」、「参考」、「留意点」、「データ源」、「資料」等を記載した。

また、「Ⅴ. 指標の測定によって明らかになったがん対策の課題」として、策定の実施主体が研究班であることにより、施設によっては、公的意義が不十分と判断され、協力が得られないケースが複数見られたこと、患者体験調査の回答率は、50%を超えており、同種の調査に比べ高い数値となったが、状態の悪い患者、良くない体験をしたと感じている患者からは回答が得られない可能性があると考えられること、質問項目の設定が最適となっていないために、想定と異なる回答が得られた項目（希少がんの診断から治療開始までの期間が、一般のがんより短いなど）があること、がん診療連携拠点病院現況報告書の回答の中に正確性に疑問を感じるデータが含まれていること、一部のデータについて、新たな調査を実施できなかったことなどが挙げられた。さらに、「資料」において、患者体験調査に都道府県がん診療連携拠点病院が1施設も参加しなかったために、補正値が設定できなかった9府県を除いた38都道府県について、都道府県別補正値を算出し、都道府県格差があることを確認した。

なお、当報告書は、研究協力者、都道府県、がん診療連携拠点病院等に送付した。

2) がん相談支援センター利用者調査

がん相談支援センター利用者調査として、困りごと、センターの雰囲気、相談員の取り組み、求める情報を得られたか、フェイススコアによる相談前後での気持ちの変化、認知の経路など17問と相談者情報として3問と自由記載欄を合わせた21問の質問からなる調査票を作成した（図1）。調査票は、調査実施施設において、1月中旬～3月中旬までの調査期間にがん相談支援センターで対応したすべての面談による相談者に配布し、郵送回収する方法とした。

3) がん相談支援センター相談記入シート登録システムによる相談数調査

相談記録を登録するとともに、件数の集計が可能となる相談記入シート登録システムとして、マイクロソフトエクセルのマクロを活用した「直接入力用エクセルファイル」に相談記入シートの項目を登録して、「集計用エクセルファイル」を生成し、集計用ファイルから個人識別情報を削除した「送信用CSVファイル」を生成し、データを暗号化した後、国立がん研究センターのサーバに送信するよう設定した。また、施設によっては、電子カルテシステムやファイルサーバーに相談記入シートをテンプレートとして実装していることもあり、そのような場合には、

電子カ

図1 相談支援センター利用者調査票

がん相談支援センター利用者調査

このアンケートはがん相談支援センターをよりよいものにするためのご意見をお聞きすることを目的としています。ご回答にかかる時間は10分程度です。
無記名で、どなたか回答されたのかを特定することはありません。思ったまま、感じたままをお書きください。
この調査はみなさんの自由意思によるもので、強制はありません。答えたくない質問がありましたら、無記入で次の質問に進むなど、無理のない範囲でお答えください。
アンケートの主体は研究班（研究代表者：若尾文彦・国立がん研究センターがん対策情報センター）です。
問い合わせ先： 国立がん研究センターがん対策情報センター

<今回の相談について伺います>

問1. どのようなお困りごとで、がん相談支援センターを利用されましたか？（あてはまるものすべてに○）

1. 病気の情報や治療のこと	2. 痛み、吐き気、腫れなどの症状
3. 食欲やだるさ、不眠など、体の不調	4. 気持ちの落ち込み、イライラなど
5. 医療費や介護費用など経済的なこと	6. 仕事や学校のこと
7. 医療スタッフと関係	8. 家族や友人との関係
9. これという困りごとはないが、誰かに相談したかった	
10. その他（ ）	

問2. 相談支援センターは相談しやすい雰囲気でしたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問3. 相談支援センターはあなたの相談に対して真摯に取り組んでくれたと思いますか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問4. 相談支援センターは病院や主治医や他の職員には置き換えることができない雰囲気でしたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問5. 相談支援センターは、病院から中立な立場を保っていましたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問6. あなたの相談は、相談支援センターに理解してもらえたと感じますか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問7. あなたが必要な情報は得られましたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問8. あなたの相談したかった問題は、解決へ近づいたと感じますか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問9. 今回相談したことで、今後困りごとが出てきたときに、自分で対応することができると感じますか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問10. 相談支援センターを利用したことで、安心して治療を受けたり、療養生活を送ったりできるようになりましたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問11. 相談支援センターを利用したことで、担当医や看護士など病院の職員とのかかわり方は良い方向になりましたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問12. 今日の相談前、相談後のお気持ちの変化について、下記の絵で一番近いと思われる0～5の番号に○を印をお願いします。また、よろしければその理由をカッコ内にご記入下さい。

相談前

相談後

その理由 ()

問13. 相談支援センターをまた利用したいと思いますか。（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問14. 家族があなたと同様に困っていることがあったら、相談支援センターに相談するのをすすめますか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

問15. 今までにがん相談支援センターをどれくらい利用したことがありますか？（○は1つ）

1. 今回がはじめて 2. 以前1度利用した 3. これまでに2度使った
4. 3度以上使った

問16. どのようにしてがん相談支援センターをお知りになりましたか？（○は1つ）

1. 医療スタッフから聞いた 2. ポスター・パンフレット等をみた
3. 家族・友人・知人から聞いた 4. インターネットで見つけた
5. 患者会・患者サロンなどで聞いた 6. その他（ ）

問17. 情報がほしい、相談したいと思ってから、すぐに相談支援センターを利用することができましたか？（○は1つ）

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない/わからない
4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない

<あなたご自身について伺います>

問18. 性別をお答えください。（○は1つ）

1. 男性 2. 女性

問19. 年齢をお答えください。（○は1つ）

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
5. 60歳代 6. 70歳代 7. 80歳以上

問20. 今回の相談のがん患者さんからみて、あなたの関係は次のうちどれですか？（○は1つ）

1. 患者さん本人 2. 患者さんの親 3. 患者さんの子（嫁・婿含む）
4. 患者さんの職場関係者 5. 患者さんの友人 6. 患者とは関係ない

問21. その他、何かご意見、コメントがあればお知らせください。

()

ルテやファイルメーカーから「送信用CSVファイル」に合わせた形でCSVファイルをエクスポートすることで、国立がん研究センターでの集計が可能となるシステムとした。

4) がん相談支援センター利用者調査及び相談記入シート登録システムのパイロット調査参加施設の募集、選定

利用者調査および件数カウントシステムのパイロット参加を都道府県がん診療連携拠点病院を通して、各県のがん診療連携拠点病院に働き掛け、募集したところ、利用者調査については、30都道府県154のがん診療連携拠点病院から、相談記入シート登録システムを活用した相談件数調査については、30都道府県148のがん診療連携拠点病院から申し出を受けた。それらの施設から地域性等を考慮し、8都道県・18施設、北海道（北海道がんセンター、旭川医科大学病院）、東京都（東京都立駒込病院、がん研究会有明病院）、神奈川県（神奈川県立がんセンター、藤沢市民病院）、長野県（信州大学医学部附属病院、長野市民病院）、岡山県（岡山大学病院、岡山赤十字病院）、香川県（香川大学医学部附属病院、高松赤十字病院）、福岡県（九州がんセンター、九州大学病院）、長崎県（長崎大学、長崎医療センター）を選定し、利用者調査については、各施設100件まで、計1,600件とし、2016年1月～3月のパイロット実施に向けて、準備を進めている。

2. 前年度までの研究成果

平成27年度採択（平成26年度研究班は平成26年3月で終了となり、新規研究班として、平成27年11月採択となり、一部の研究成果を引き継ぐ形で新たな研究を開始した。）

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

平成26年に計測されたがん対策の進捗管理指標において、平成26年度に計測できなかった指標について、課題を整理して、計測法について再度検討し、計測可能なものについて測定することにより、より詳細かつ広範にわたるがん対策の進捗の評価を実施することができ、次期がん対策推進基本計画策定に資する基礎データを提供することが可能となる。

また、患者への情報の提供、不安の軽減において、重要な役割を担うがん相談支援センターの利用者調査を行うことにより、がん相談支援の効果、相談支援センター利用の促進因子・阻害因子について評価することが可能となり、相談支援のPDCAサイクルを回すための重要なデータとなる。それに加え、従来、施設による体制の相違により、統一的なカウントの実施が困難であったがん相談件数について、新たな相談記入シート登録システムを用いることで、がん相談支援の施設間での比較が可能となり、地域における相談支援体制の評価を行うことが可能となる。

4. 倫理面への配慮

本研究においては、個人に接触する部分については、国立がん研究センターの研究倫理審査を受け、その指示、承認のもとに遂行する。初年度のデルファイ調査、患者の療養生活の質評価に関するグループ調査は対象者の参加については十分な説明の上を依頼し、撤回の自由を説明した上で、書面による同意をえる。診療体験調査については、協力施設における倫理基準に配慮してその同意を得る。

5. 発表論文

1. 東 尚弘, 岩本 桃子, 高山 智子, 八巻 知香子, 神谷 泉, 奥山 絢子, 中村 文明, 伊東 洋介, 若尾 文彦 日本のがん対策の新しい動き 科学的根拠に基づいたがん対策を進めるために がん対策の進捗管理指標を策定するための意見集約調査. 癌の臨床60巻3号 Page377-383, 2014
2. 奥山 絢子, 東 尚弘, 斉藤 博, 雑賀 公美子, 町井 涼子, 松田 和子, 若尾 文彦 日本のがん対策の新しい動き 科学的根拠に基づいたがん対策を進めるために がんの早期発見分野におけるがん対策進捗管理指標と進捗状況. 癌の臨床61巻2号 Page155-161, 2014
3. 東 尚弘【質の向上のための可視化とその後の責任】 がん診療のQIによる可視化とその後の責任. Surgery Frontier 21巻4号 Page363-366, 2014_

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究 機関にお ける職名
若尾文彦	統括・進行	国立がん研究センターがん対策情報センター	センター長
東 尚弘	各分野別の指標の策定、算定、および診療体験調査の補完に関する検討	国立がん研究センターがん対策情報センターがん政策科学研究部	部長
高山智子	相談支援センターの PDCA サイクル確保に関する研究	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部	部長
早川雅代	相談支援センターの PDCA サイクル確保に関する研究	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部	室長
八巻千香子	相談支援センターの PDCA サイクル確保に関する研究	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部	室長